



立憲民主党 代表
京都府第3区 衆議院議員
泉ケンタ
現8 / 48歳

党代表として、地元京都の皆様への支援に心から感謝申し上げます。教育子育て予算倍増、再エネ省エネの促進、金融政策の正常化、下請け非正規も含めての賃上げ、物価上昇に負けない年金制度。そして綱領、基本政策、ビジョン22…。立憲民主党は、皆様にご覧いただける対案を用意しています。さらにこの度、党所属自治体議員は「立憲ボトムアップビジョン2023」を策定しました。多様性を認めあう社会、居場所と出番のある社会、安心して暮らせる社会の実現を目指して参ります。

立憲ボトムアップ
ビジョン2023は
こちらから！



立憲が動かす もっと良い市政へ

京都市民の皆様には、日頃より立憲民主党の活動にご支援を頂き、ありがとうございます。政治はやる人によって必ず変わる。私が政治家として大切にしている思いです。京都市政に挑む仲間には、皆様を感じる「こんな地域なら安心」、「ここが不安」という声にこたえるため、京都市政の現場にその声を届けます。例えば、物価高、中小企業（インボイス導入・ゼロゼロ融資関連等）、行財政改革、介護人材難、子育て、障がい者の課題、LGBTQ…。これからも、国、京都府、そして京都市で連携して地域の課題に取り組んで参ります。ぜひご協力をお願いいたします。



立憲民主党京都府連会長
参議院議員
福山哲郎
現5 / 61歳

京都市議選は

あなたの一票を 立憲民主党 The Constitutional Democratic Party of Japan の候補者へ

2023年
京都市会議員選挙

投票日は
4月9日(日)



投票日前日まで、毎日期日前投票もできます。

京都の価値が生きるまちづくりへ

永い歴史に支えられた自然的・文化的風土である山紫水明の山々や川の流れ、文化財や史跡が暮らしと共存する都市空間、伝統的な町家や町並みが数多く維持され、そこに根差した生活文化や伝統産業が生き続けるまちへ。目先の利益を追求するだけではなく、京都が大切にしてきた価値が千年先まで生きるまちづくりを進めます。

対話でつくる、 みんなでつくる京都へ

市民の皆様との対話でつくる京都、みんなでつくる京都市政を目指しています。京都に住み生活する、子ども、若い方、働いている方、子育て中の方、ご高齢の方、障がいのある方、お一人お一人の声を聞き、思いを活かした京都市政や政治を進めます。お一人お一人の声を徹底的に聞き、徹底的に活かしていくことで、活気があり元気で賑やかなまち、誰もが安心して暮らしやすいまちの実現へとつなげていきます。

子どもを真ん中に

子どもを真ん中に、誰もが安心して暮らせる京都市を目指します。頼れるおとながない、貧困や孤独を抱える子どもや若者を放っておけません。まずは子ども自身や若者自身へ届く支援制度が必要です。そして何より、おとなが大切にされ支援されている姿がなければ、若い世代は安心して未来を描けません。若い世代が未来を描ける社会、誰もが安心して暮らせる京都市を、市民の皆さんと一緒に作っていきます。

めざす京都の姿 私たちの思い

立憲独自の政策軸をつくる

京都市政において福祉や人口減少など国政と同じ課題を抱えています。「市民生活に必要な分野を赤字だからと切り捨てない」「自己責任社会に区切りをつける」など市政においても立憲民主党の役割は大きいと思います。支え合いの社会をつくるため、立憲独自の政策軸を示していきます。

多様性の力で 新しい伝統をつくる京都へ

京都は伝統を大切にすまちです。伝統を守るのは簡単ではありませんが、京都には時代の荒波を受けて新しい伝統をつくってきた歴史があります。少子化・人口減少には、子どもも高齢者も、女性も男性も、障がいのあるひともないひと、みんなが主役になることでしか対抗できないと思います。そのようなすべての京都人の力を発揮できる市政を目指します。

持続可能な都市・京都へ

京都市政をより良くしていくために一番必要なのは、市民との対話です。すでに日本は超高齢社会、人口減少社会ですが、京都市においても例外ではありません。そう遠くない今後5年～10年で、かつて経験したことのない課題に向き合っていく必要があります。京都市がどのような困難な状況でも、市民の皆さまと対話を重ね、私の子ども達の世代、将来世代にはツケを回さない責任ある政治を行い、「持続可能な都市・京都」を実現していきます！



京都市版ボトムアップビジョン 2023

立憲民主党京都府連は、今後の京都市政で取り組んでいく政策として以下の「京都市版ボトムアップビジョン2023」をとりまとめています。

変える。市民生活に 寄り添う 財政改革



政策への信頼を回復し、いつまでも住み続けられる京都市をつくっていくために、目先の収支合わせではなく長期的なビジョンに基づいた財政改革を進めます。

変える。子育て環境の充実 を実感できる 京都市へ 子育て 支援



妊娠期・乳幼児・就学前・高校生まで、切れ目のないバランスのとれた子育て支援策に。2人目からの保育料の無償化、子ども医療費支給制度の京都市独自の上乗せによるさらなる拡充といった子育て支援策の充実に取り組みます。子どもと遊びに行ける場所の充実、お出かけ環境の向上で、子育てを楽しめるまちにしていきます。

変える。自己責任から支え あえる福祉の まちへ 福祉



介護・障がい・生活困窮・子育てなど、困難を個人や家庭だけで抱え込んでしまうことがないように、分野を超えた連携と支え合いの仕組みを構築します。福祉人材の育成やケアラー支援条例の制定、介護離職ゼロに向けての取り組み、制度の狭間の解消や新しい課題への対応など、困ったときはお互いさまと言える地域づくりを進めます。

変える。環境に優しい 持続可能な 経済へ 環境 ・産業



持続可能な環境に優しい産業への転換で新たな成長を生み出す。環境政策と産業政策の融合で、新産業の育成や生物多様性に配慮した農業の支援などに取り組みます。

変える。市民がより自由に 動ける 交通 交通政策へ



市民の足の確保が、地域に暮らし続けるためには必要です。コロナ禍で厳しい経営状況にある市バスや民間バスの経営を支援し、単に赤字だからと路線が切り捨てられないように守っていきます。地域の多様なニーズに応え、小まわりのきくベーシックサービスとしての交通を実現するために、コミュニティバスやデマンド交通・自動運転バスなどの実現に向けて取り組みます。また、観光客の分散化や自動車の流入抑制など観光による交通課題の解消を進めます。

変える。みんなが無理なく 参加できる 地域 コミュニティ 地域へ



価値観やライフスタイルが多様化しているのに、地域コミュニティの仕組みは古いままであまり変わっていません。負荷が重すぎる人がいる一方で、生活や仕事が忙しく興味はあるのに参加できない若い人もいます。また、地域に関わるきっかけがないことで孤立してしまっている人もいます。世帯が少なくなった町内会の統合、市政協力委員制度や市民しんぶんの配布方法の見直し、デジタル技術をはじめとした様々なサポートの導入などで、さまざまな属性の人が支え合える地域の再構築に取り組みます。

変える。もっと政策決定に市民 が参加できる 京都市へ 市民参加



「言っても仕方がない」と市民があきらめてしまわない市政へ。必要なのは丁寧な説明ではなく対話です。ビジョン策定・財政改革・予算編成・規制緩和など、市民が決まったこととお知らせされるだけにならないよう、検討段階からの市民との対話や、集められた市民意見の政策への反映といった参加型の意思決定を進めます。